

第 63 回政策研究大学院大学経営協議会議事要旨

- 日 時 : 平成 29 年 3 月 22 日 (水) 15:30~16:21
- 場 所 : 政策研究大学院大学 会議室 3C
- 出席者 :
 - [学外委員]
石田委員、老川委員、奥委員、小野委員、工藤委員、嶋津委員、中邨委員、林委員、早房委員、
 - [学内委員]
白石学長、大山理事、園部副学長、増山副学長、横道副学長、今野学長特別補佐、中野大学運営局長
- 欠席者 :
 - [学外委員]
加藤委員
 - [学内委員]
角南副学長、道下学長特別補佐

I. 審議事項

1. 平成 29 年度学内予算(案)について

資料に基づき、中野大学運営局長から、平成29年度学内予算(案)について、収支構造、予算編成方針、及び運営費交付金事業に係る収支について説明があった。具体的には、収入について、運営費交付金は文部科学省からの内示額を計上したこと、間接経費収入は、科研費継続分の予定額と科研費等の新規採択見込に基づく見込額合わせて113百万円を計上したこと、支出について、人件費は、外部資金への振替により運営費交付金財源からの支出を抑制しており、機能強化経費への振替計上、法定福利費所要額の精査等に伴い対前年度29百万円減となっていること、教育経費は、教育活動の適切・着実な実施に必要な経費を計上しており、学生用PC購入費等の増があること、研究経費は前年度と同額を計上したこと、教育研究支援経費は、図書館事業費の減があること、一般管理経費は、認証評価に係る経費の増があること、学長裁量経費は前年度と同額を計上したこと、一時的な措置として国際機関プログラムからの間接経費収入を人件費に活用すること等について説明があった。その後、前中期目標期間繰越積立金について、平成29年度国際機関プログラムからの間接経費収入の活用(案)、平成29年度学内予算についての見通し(試算)、及び平成29年度大学戦略経費配分基本方針について説明があり、これを了承した。

◆学外委員からの主な意見は以下のとおり。(○:学外委員、△:本学)

○:人件費の外部資金への振替とはどういうことか。

△:大学予算は運営費交付金とそれ以外で明確に分かれており外部資金である国際機関プログラムからの間接経費収入等を人件費に充当するというもの。

○:人件費が人件費から支出できないというのはおかしいのではないか。

△:その通り。そのため、数年前に人件費のデータを確認のうえ、どのように予算を割り当てるのか、全体を見て調整し、その上でどのように教員を雇用するのかを検討した。

○:P2「学長裁量経費より37百万円を人件費に充当」とあるが、学長裁量経費は大学として戦略的に使用するものであり、単に人件費に充当するという記述は好ましくないのでは。目的に沿った使用である旨、表現を再考する必要がある。

△:変更を検討する。

2. 平成 29 年度計画(案)について

資料に基づき、中野大学運営局長から、平成 29 年度計画(案)について、戦略性が高く意欲的な計画等概要の説明があり、これを了承した。また、白石学長から本件については田中次期学長が企画懇談会等で実質的に議論に参加のうえ、策定を行ったものである旨付言があった。

◆学外委員からの主な意見は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)

○：年度計画 5-2 で国内外の政治家を対象としてとあるが、これは実施されているのか。

△：現在も実施している。一例として、日・ASEAN ステーツマンズフォーラムというものを実施しており、日本からは林芳正議員、塩崎恭久議員、武見敬三議員を中核メンバーとし、その他インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア等の政治家が参加している。今後の若手の参加や世代交代が課題としてある。

3. 学則等の改正について(案)

資料に基づき、中野大学運営局長から、役員会の構成に係る学則及び役員会規則の改正について説明があり、これを了承した。

4. その他

特になし。

II. 報告事項

1. 平成 29 年度政策研究大学院大学運営体制(案)について

資料に基づき、中野大学運営局長から、平成 29 年度政策研究大学院大学運営体制(案)について報告があった。

2. 平成 29 年度医療政策短期特別研修、農業政策短期特別研修、及び地域コミュニティの政策イノベーション能力(つなぐ力)開発研修の実施について

資料に基づき、横道副学長から、平成29年7月～9月に平成29年度医療政策短期特別研修、農業政策短期特別研修、及び地域コミュニティの政策イノベーション能力(つなぐ力)開発研修を本学において実施する旨報告があった。

3. 第 2 回 GRIPS International Advisory Committee の開催について

資料に基づき、白石学長から、3月6日～7日に開催した第2回 GRIPS International Advisory Committee について、IAC 委員より報告のあった4点の課題を含むレポートの内容について説明があった。また、本会議には次期学長も出席したこと、これらの課題については次期学長への引継ぎ事項となる旨付言があった。

◆学外委員からの主な意見は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)

○：留学生のバックグラウンドが多様であることも踏まえ、一定のジェネラルエデュケーションが必要なのではないか。

△：動画による講義など、ティーチングスタイルが急速に変わりつつある中で、ジェネラルエデュケーションとは何なのかを今一度考える時期に来ている。

4. その他

最後に、白石学長より委員への謝辞が述べられ、委員よりこれまでの学長の功績をたたえる発言があった。

以 上。